資料2-1

神通川水系河川整備計画の点検結果について

令和４年（2022年）１１月４日

北陸地方整備局
富山河川国道事務所

第1回神通川水系流域委員会での主なご意見についての対応

	ご意見	回答
1	サクラマスに対する対策が始まってから10数年経過しているが、サクラマスの資源量は減少している。それにも関わらず、P37で「現整備計画に基づく整備は着実に進行」と記載するのは、対策して魚の資源量が減っていても、それでよいと認識していると捉えられかねない。	サクラマスの漁獲高が減少している理由は、河川環境のみならず海洋環境の変化や人為的な影響を受けるため評価は難しいが、自然再生事業の定量的な効果を示せていないのは課題として認識しているため、今後検討していきます。
2	霞堤は関係機関と取組を推進していくという記載があるが、誰が何をするのか明確に記載してほしい。	ご指摘を踏まえ、資料を修正しました。
3	洪水氾濫に備えた社会全体の対応に関する記載について、昨年度から「避難勧告」は廃止されているため、旧来の避難勧告なのか避難情報等ということなのか、用語の整理が必要である。	ご指摘を踏まえ、令和3年5月に避難勧告・避難指示は避難指示に一本化され、避難勧告は廃止されたことについて、資料に注記を追加しました。
4	一般住民は、ハザードマップを見て危険度を判断したり、避難の対応を考えたりするため、氾濫流や河岸侵食が想定される区域に対して、さらに工事の情報を盛り込むと安心感が出てよい。	国では、下図となる浸水想定区域図を作成し、市町村が各種情報を盛り込んでハザードマップを作成している。ご意見は市に情報提供し、河川管理者としては、工事状況をインターネット等で広報していきます。
5	河川環境のモニタリングについて記載があるが、サクラマスやアユ、サケ等の通し回遊魚であれば、神通川だけで評価できる部分と日本海全域で評価すべきことがあり、それらの比較も必要となって生態系全体を評価することは大変難しい。同様に、川の中の生態系を全て明らかにすることは難しいが、生態系の評価に関する視点も含めるべきである。例えば、単に重要種の数のみを示すのではなく、なぜ植物の確認種数だけが増えているかなど評価すべきである。	ご指摘の通り、生態系について評価を行う必要があり、色々な見方があると思うので、全体を通して、今後ご相談させて頂きます。
6	神通川では、戦後最大洪水である平成16年洪水は流量が大きな一山洪水であったが、平成30年洪水はそこまでの流量ではないものの継続時間が長かった。雨の降り方ということになるのかもしれないが、洪水波形や洪水継続時間が重要な要素となってくる。	洪水の継続時間は、今後、気候変動に伴う基本方針・整備計画の見直しを行う際、検討していきます。
7	富山県と岐阜県の短時間強雨の発生回数について、30mmと50mmを比較せずに4枚出すなどしてしっかり示したらよい。グラフの縦軸を揃えて示すとよい。富山に来て数年になるが、他県では雨が降っているのに、富山の特に西側では雨が降らないことがあると感じている。富山市は県外から来た人も多い。一般の方に対しても、上流の岐阜のほうまで流域が広く、（下流で）降っていなくても流域全体としては危険であることを示すとよい。	ご指摘を踏まえ、富山県と岐阜県の30mmと50mmの1時間降水量の年間発生回数を示すこととし、資料を修正しました。
8	流域治水の「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」の集水域対策について、その重要性を認識しているものの、必要な対策等について関係機関へ働きかけるといったことについて言及が薄い。管轄外の対策であっても、もっと具体的に認識を持つことが重要。	集水域での流域治水対策は、森林管理署等と情報共有を図ったうえで、協働しながら流域治水を進めていきます。
9	ダムによって、上流からの土砂供給が減少しており、河床低下がみられている。質的には河原の土砂の粒径組成が変わっていく。量とも相まって、河道のかたち、物理的な環境が変わってきているのではないか。土砂動態は治水上も環境上も大きな問題になるのだが言及されていない。大きな視点で、神通川の治水、環境を土砂と絡めて考えてもらいたい。	土砂管理については、今後、基本方針・整備計画の見直しの過程で、検討を進めていきます。
10	河道内の土砂の量を増やして環境を配慮することはよいが、流路が変化して出水時に河岸侵食の危険性が増える可能性もある。土砂の移動からみて危険箇所を把握しておく必要がある。	土砂移動を踏まえた危険箇所の整理については、今後参考にさせていただき、検討していきます。

※下線部は、第1回神通川水系流域委員会後に対応した事項

7. 河川整備計画の点検の結果

河川整備の実施

［河川整備の実施に関する事項の進捗状況］

■河川整備計画策定以降、堤防整備、河道掘削、急流河川対策、堤防の浸透対策を実施している。

■令和4(2022)年度末（予定）の大臣管理区間において堤防が必要な延長に対する計画断面堤防の堤防整備状況は策定時の59.8%から約72%まで向上した。

■神通川では、サクラマスなど多様な動植物が生息・生育・繁殖しやすい環境への再生を目的として、サクラマスの成魚の多くが産卵前の夏場を過ごす神通川中流部や支川において、「隠れ場」、「幼魚の生息場」の整備を行う自然再生事業を実施している。

⇒現計画に基づく整備は着実に進行。自然再生事業の効果については検討が必要。

［流域の社会情勢等の変化］

■神通川流域の関係市町村における総人口は近年減少傾向にあるが、世帯数は増加傾向にある。

■富山市では、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを推進している。富山駅を中心としたLRTネットワークが形成されている。

■整備計画策定以降において、整備計画目標流量を上回る洪水は発生していない。

⇒計画の見直しが必要となる社会情勢等の変化はない。

［河川整備に関する新たな視点］

■全国的な洪水の激甚化や気候変動による影響等を踏まえ、流域内のあらゆる関係者が協働して流域全体で対応する治水対策「流域治水」へ転換。令和3年3月に神通川水系流域治水プロジェクトを公表。

⇒河川区域内で行う河川整備内容に変更はない。

［点検結果］

引き続き、現計画に基づき、河川整備を実施していく。

併せて気候変動等に伴う基本方針、整備計画の見直しに関する検討を行っていく。